



たまシネマ通信

TAMA映画フォーラム実行委員会
〒206-0025 多摩市永山1-5
ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661
直通:080-5450-7204
<http://www.tamaeiga.org/>

VOL. 3

February
2012

特集:第21回映画祭TAMA CINEMA FORUMを振り返って [2011. 11.19 sat – 11.27 sun]

多彩で盛りだくさんな今年の映画祭レポートをお届けします!
ぜひ今年もお楽しみに。

// 第3回TAMA映画賞 //

豪華ゲストと
満員のお客さまに感謝!

11.26(土)

パルテノン多摩小ホール

今年で3回目を迎えるTAMA映画賞の授賞式。例年以上に豪華なゲストの方にご登壇いただけるとあって、実行委員も緊張ととまどいのあるなか、いよいよ本番当日。報道のカメラも例年以上に多く、なんとなくざわざわした雰囲気なかで定刻通り、授賞式スタート!

まずは、最優秀新進監督賞の深田晃司監督と前田弘二監督。深田監督の「数年後にあの時の受賞は間違いだったと言わないように頑張りたいと思います」との真摯な姿勢のコメントにみなさん共感されていました。

最優秀新進男優賞では、舞台から映画へと活躍の場を広げてきた古舘寛治さんの登場に会場から「フルタチ」との声が。染谷将太さんは、「昨年、自主映画(コンペ)のTAMA NEW WAVEで役者として初めて賞をもらい、今年、商業映画でこのような賞をいただけて嬉しく思います。」と、スタッフにとってこのうえない嬉しいコメント。

最優秀新進女優賞では、井上真央さんがご欠席でしたが、3分に及ぶ熱いビデオメッセージをくださいました。二階堂ふみさんのご登壇では、多摩市のマスコットキャラクターのキティちゃんがプレセンターに。実生活でもキティちゃんのグッズを使っているという二階堂さんは大喜び。そして、『ヒミズ』でヴェネチア国際映画祭でマルチェロ・マストロヤニ賞(最優秀新人賞)を受賞した染谷さんと二階堂さんが並んでインタビュー。ヴェネチアに行く際、二階堂さんがすごく緊張していたエピソードなどを、染谷さんが披露して場内をわかれました。

特別賞の『大鹿村騒動記』では、共同プロデューサーの服部徹様のご登壇。故・原田芳雄さんの娘、原田麻由さんからの直筆メッセージを読み上げ、会場のみなさんも聞き入っていました。

最優秀男優賞を受賞した光石研さんは、「とにかくスケジュールさえ合えば何でもやらせてもらいます。今年は50歳になりましたけども、いつまでも映画の現場にたずさわれるよう頑張っていきたい」とおだやかに、人柄がよく伝わるコメントでした。

ハイライトは最優秀女優賞のおふたり。まず『八日目の蟬』にご出演された永作博美さん。「(出産直後で)休もうと思っていた時期だったので出演するかすごく悩みましたが、避けてはやってよかったなと心から思っています。こういう賞をいただくことで、作品を豊かにしてもらったような気がします」一方、小西真奈美さんは「いまだに現場に行くと緊張しますし、ワクワクしています。ドキドキしながら情熱を持ち続けていられるのは嬉しいことだと思っています」と、女優として充実した時期であることがうかがえるコメントをくださいました。



そして最優秀作品賞。『奇跡』の是枝裕和監督は、本作に出演した故・原田芳雄さんを偲び、「もう一緒に映画が作れないと悲しい気持ちになりますが、原田さんに恥ずかしくないような作品をこれからも作っていかたいと思います。この賞はそのための励みになります」と思いを語っていただきました。大トリは、御年99歳の新藤兼人監督の『一枚のハガキ』。「本人は授賞式に来る気満々でしたが、足が立たないので登壇させませんでした」と新藤監督の孫娘の新藤風さんが代理でご登壇。「『グランプリはいくらもらえるんだ』と聞かれたので、『お金はないけど、名誉はもらえます』と答えると『名誉ではお腹はいっぱいにならないけど、気分はいからいいか』と言っていました」と、ほのぼのとしたやりとりを披露し、場内をなごませました。

最後にキティちゃんも入ったの記念撮影。夢のような時間はあっという間に終わりましたが、受賞された方々の真摯な対応を拝見するにつれ、また次回の授賞式に向けて頑張らなければと気持ちを新たにしました。(実行委員 飯田)

ラテン・アメリカの才能 『悲しみのミルク』 11.19(土) ベルブホール

先行きを暗示するような雨模様でのオープニング。ゲストの松崎文音さんからお借りしたペルーの民族衣装を着て、はしゃぐ谷口、末吉のコンビ。マチュピチュ等のポスターを貼り、観客を待つ。予定よりだいぶ早くゲストご到着。結構念入りにマイクテストを行ない、控え室に案内する。

さあ、お客の入りはどうだ。雨の中、皆さん足を運んでくださり、本当に頭が下がります。作品は期待通り。素晴らしい。

さて拍手の後にゲストの登場。青木隆八さんの「コンドルは飛んでいく」のギター演奏で始まったパリワニータのライブ。想像していた賑やかな演奏とは違う静かで、それでいて搾り出すような松崎さんの歌声。青白い炎のゆらめき。観客は「なんだこれは？」という顔をしている。だんだん佳境に入ると皆、松崎ワールドに引き込まれていく。凄いな～。

演奏が終わりトーク開始。おっと、ペットボトルの水を出し忘れ。谷口ににらまれる。慌ててテーブルに出し、青木さんも交えトーク開始。いや～楽しいトークでした。ゆったりと話す松崎さんのペースに青木さんがはにかみながら絡む。絶妙な演奏からは考えられない面白トークに観客の笑いが振り、オープニングに相応しい情景でした。終了後にロビーで楽しそうに話す観客と松崎さんたちを見て、中成功かなって自分に納得でした。(観客がもっと多ければ大成功) (実行委員 竹内)



bloody typhoon - 素晴らしき狂気 - 11.19(土) ベルブホール

『ドリーム・ホーム』 『冷たい熱帯魚』

今回の映画祭唯一のR18+プログラム「bloody typhoon - 素晴らしき狂気-」では、『ドリーム・ホーム』、『冷たい熱帯魚』を上映いたしました。音・照明を操作して下さった映写室の公民館職員も啞然とする阿鼻叫喚の濃い内容に、皆さま存分にお楽しみいただけましたと思います。

2作品上映後に『冷たい熱帯魚』にご出演の黒沢あすかさんを迎え、ライターの森直人さんを司会にトークショーを行いました。お二人は初対面だそうですが、すでに旧知の仲良さであったかのようにトークは盛り上がりました。

3人の息子の母親としての顔と女優の顔の違い、ブレイクのきっかけとなった『六月の蛇』での塚本晋也監督と園子温監督との演出の違いなど興味深い話が次々と……黒沢さんは笑顔と涙を交えて表情豊かに話されていました。また、「今が一番幸せです」と、嘘偽りない表情で発言されていたのは特に印象的でした。お越しく下さった皆さま、本当にありがとうございました。

(実行委員 渡邊)



「フクシマ後」を生きる - 放射能、私たちの責任 -

『チェルノブイリ・ハート』

11.19(土) ヴィータホール



ヴィータホール第1部は「フクシマ後」を生きる-放射能、私たちの責任-と題し、原発事故から16年後の被害の実態に迫ったドキュメンタリー『チェルノブイリ・ハート』上映後に、いしだ壱成さん、鈴木菜央さんをお迎えしてのトークを行いました。

お二人は初対面ながら、ほぼ同世代で共通項も多く、息の合ったトークに。チェルノブイリ事故当時は小学生で、お母様と共に脱原発運動に参加していたといういしださん。「あなたの暮らしと世界を変えるグッドアイデア」を紹介するWebマガジン greenz.jp (<http://greenz.jp/>) で情報発信を続けている鈴木さん。互いに今の考え、実践しているアクションなどを丁寧に語り、また相手の話に真剣に耳を傾ける姿が印象的でした。楽屋でお二人が言っていた「誰かを責めることから何も生まれない」という言葉も忘れられません。トークの最後には、隣り合った人と映画の感想を語り合ったり、ゲストへの質疑応答の時間も。終了後のロビーでは、話し足りないお客様の対話の輪がそこかしこで生まれていたようです。

企画段階から映画祭の中でこのようなテーマを扱う難しさを感じていましたが、ゲストの方々がその意図を十分に汲み取って、前を向いたトークをして下さったことが有難かったです。参加した方々にとって、この上映が何かのきっかけになれば幸いです。

(実行委員 黒川)

// 世界の教室から //

『ワールドピースゲームと小学4年生』

『ちいさな哲学者たち』

11.20 (日) ベルブホール



アメリカとフランスからの教育ドキュメンタリー2本を上映しました。1本目は小学校を舞台にした『ワールドピースゲームと小学4年生』。平和教育のために先生が考案したゲームに4年生たちが挑戦します。平和な世界を作ろうと生徒たちが全力で知恵を絞っている姿を見ていると、この子たちに将来を任せても大丈夫! という気になります。希望のあるラストに「思わず泣きそうになりました」と複数のお客さまから感想が漏れていました。

2本目は都内の上映でもロングランとなった『ちいさな哲学者たち』。「哲学」の時間を設けたパリの幼稚園で、園児たちが愛や自由について話します。言葉にすることの大切さが伝わってくる作品です。上映後、お客さまが「昔、子どもに『あれ何?』ってよく聞かれたけど、ただ答えるんじゃなくて『何だと思う?』って聞き返せば良かったな」と話していたのが印象的でした。

2本とも子どもが主役の作品でしたが、多くの方が上映後の感想のなかで、子どもたちを見守る先生の姿について触れていました。その鑑賞眼の確かさに見合うよう、次の映画祭も見応えある作品を揃えたいと思います。ご来場くださった皆さま、どうもありがとうございました。(実行委員 三橋)

// 多摩国際交流企画「隣人と」 //

『タレントタイム』

『歓待』

11.20 (日) ベルブホール



『ワスレナグサ』について

『タレントタイム』のヤスミン・アフマド監督が2009年7月に亡くなる時、制作途中の日本＝マレーシア合作の映画があった。監督＝ヤスミン・アフマド、主演／プロデューサー＝杉野希妃、ロケ地予定は石川県、タイトルは『ワスレナグサ』。

残念ながら、撮影前に中断となり完成しなかったが、その後2010年7月に、杉野は『歓待』という作品をプロデュースした。ヤスミンが母国マレーシアにおいて「現実がないマレーシア」を描いたことと、『歓待』で「日本で起こるかもしれないこと」を描いたことは、もう一つの世界を夢見ていることでリンクする。偏見や差別が常態化するこの世界で、わたしたちは「非現実的な夢想家」とまではなれないかもしれないが、「こうであってほしい世界」を夢見ることにはできるかもしれない。

ワスレナグサの花言葉、「私を忘れないで」が心に響く。

(実行委員 半田)

// 「3.11」と向き合う監督たち //

11.20 (日) パルテノン多摩小ホール

— 仙台と、ならからの発信 — 『311 仙台短篇映画祭映画制作プロジェクト作品「明日」』

『3.11 A Sense of Home Films』

去る11月20日(日)、パルテノン小ホールにて『311 仙台短篇映画祭映画制作プロジェクト作品「明日」』、なら国際映画祭の『3.11 A Sense of Home Films』の両方を上映。上映後トークを行いました。

ご登壇いただいたのは3人の監督。「ロケでお世話になった南三陸の方たちのお見舞いに行ったついでに仙台短篇の人たちが集まるところに寄って『オレ、撮るからさ』って話になったんです」という富永昌敬監督。仙台の方たちの呼びかけを知り、ご自分から名乗り出て参加された福島出身の今泉力哉監督。河瀬監督からの呼びかけでなら国際の方に参加された山崎都世子監督。河瀬監督は他の映画祭の控え室からスカイプでご参加いただき、それぞれの作品や震災への思いを語っていただきました。



両作品共、参加監督たちが自腹で作った3分11秒ずつのオムニバス作品。なら国際の方は9月11日に吉野山で、仙台の方は9月17日にそれぞれ初上映されました。震災から半年という時間の中で、作り手たちが何を思い考えたのが正直に、ある意味荒削りで生々しく表されています。また観る側も震災の記憶や経験、また時間の経過と共に両作品の受け止め方がまるで変わると、親戚が被災した筆者は、ならと仙台、そして山形で両作品を計2度ずつ観て思いました。両作品共、今後も国内外のあちこちで上映されていくことだろうと思います。是非、機会を見つけて多くの方にご覧いただきたいと思っています。(実行委員 越智)

俳優・光石研の軌跡

11.26 (土) ベルブホール

— デビュー作『博多っ子純情』～ 33年ぶり主演『あぜ道のダンディ』へ —



第3回 TAMA 映画賞最優秀男優賞の光石研さんは、今回が初めての映画祭 TAMA CINEMA FORUM への参加でした。今回の上映2作品はいずれも主演作で、1978年のデビュー作『博多っ子純情』（曾根中生監督）と、2011年公開作『あぜ道のダンディ』（石井裕也監督）。

2作品上映後、デビュー当時のお話から俳優としての心構えなど、光石研さんにお話を伺いました。また、客席からもたくさんの質問や第3回 TAMA 映画賞の最優秀男優賞受賞のお祝いや喜びのメッセージが寄せられました。

光石さんから話を伺ったなかで、「映画の撮影は制作部、演出部、撮影部とあるように、出演する俳優も“俳優部”という感覚で取り組んでいくのがいいと思うんです。『自分が自分が……』ではなくて、全体をみながら仕事をしていきたいですね。現場でかわいがってもらえるようにと意識しています」という言葉がとくに印象的でした。150本超の映画に出演を重ねてきた俳優・光石研さんの魅力をあらためて多くの方と共有することができました。（実行委員 山口）

追悼：カメラマン・安藤庄平の仕事

『泥の河』

11.27 (日) ベルブホール

まずは、夫・安藤庄平の追悼企画を出してくださった山岸さんをはじめ、実行委員の皆さまに心よりお礼申し上げます。

「小栗さんが一本になる（ひとり立ちする）時は、必ず俺が撮るんだ」と言っていました。『泥の河』を担当させていただいたことは、本人にとって嬉しかったと同時に、この映画を必ず世に出したいという気持ちも強かったことと思います。

撮影スタッフから何度も聞かされていたことは、とにかくお金がなく、皆タコ部屋同然のところで仕事をしていたということでした。私自身は現場を知りませんでした。撮影が終了した時に木村プロの社長より緑色のシンプルな魔法瓶をいただきました。魔法瓶には「泥の河記念」と記されており、しばらく我が家に定着していました。それを見るたびに『泥の河』の大変なロケを想像したものです。

今回、作品を観てくださったお客さまの中には20代の方もいらっしゃり、また40代の方も割合多かったのに驚いています。古い映画はDVDでも借りることが難しいそうです。上映後に記入してくださったアンケートでは「スクリーンで観ることができて幸せでした」「小栗監督と植草氏のトークを聴くことが出来てよかった」などがありました。

多くの方に喜んでいただき、30年前のこの作品が、今後もきっと観た方の心のなかに生き、感動を与えていくに違いないと信じています。実行委員を続けていたことを本当に良かったと思っています。（実行委員 安藤）



婚前特急まで2000日!? — 前田弘二・映画監督までの道のり —

11.27 (日) ベルブホール



映画祭最終日、ベルブホール第2部にて「婚前特急まで2000日!? — 前田弘二・映画監督までの道のり —」と題し、前田弘二監督の自主映画や話題作『婚前特急』シリーズを合わせて6本一挙に上映いたしました。

上映後は前田弘二監督・宇野祥平さん・浜野謙太さんによるトークショー。監督、俳優、ミュージシャンという組み合わせでのトークは初めてでした。監督の自主映画時代のお話、監督と宇野さんの同い年トークや、浜野さんのキスシーンの裏話など、盛りだくさんのトークとなりました！

また今年の映画祭では、偶然にも宇野さん出演の映画を上映するプログラムが4つもあり、それを記念して「宇野祥平まつり」というスタンプラリーを開催しました。3つ集めた方には宇野さんセレクトの書籍を、2つ以上集めた方には宇野さんとツーショットの機会をプレゼント！ たくさんの方にご参加いただけて、楽しかったです。（実行委員 広瀬）

// 嘘の向こうの美なる方へ //

11.23 (祝) ベルブホール

『嘘つきみーくんと壊れたまーちゃん』 『劇場版 神聖かまってちゃん ロックンロールは鳴り止まないっ』

第2部では、「嘘の向こうの美なる方へ」と題し、『嘘つきみーくんと壊れたまーちゃん』、『劇場版 神聖かまってちゃん ロックンロールは鳴り止まないっ』を上映。

2作品上映後に瀬田なつき監督、入江悠監督、森下くるみさんを迎え、映画史研究者・批評家の渡邊大輔さんの司会でトークショーを行いました。

嘘を積極的に引き受けて生の充実を選ぶ『みーまー』と、神聖かまってちゃんの歌がそれぞれの虚構(困難)を乗り越える後押しをする『かまってちゃん』と、やや強引に「嘘」つながりでまとめてみましたが、慣れないテーマに両監督とも若干戸惑い気味のご様子。でも、司会の渡邊さんの確かな批評が上手にまとめてくれました。

また、両監督それぞれのロケ地のこだわり、両作品に出てくる重要な脇役・宇治清高さんのお話、染谷将太さんが『かまってちゃん』のオーディションを受けたかったという面白い裏話も出てきました。映画初出演の森下さんは、オファーがあれば是非次も何かに、と。これがきっかけで、もしかしたら瀬田監督の映画に?!

お越しくださった皆さま、長いプログラムにお付き合いいただき、本当にありがとうございました。

(実行委員 渡邊)



// ブラボー映画祭 // まだまだやります

11.26 (土) ベルブホール

『ブラボー映画祭』！今年で何と6周年!!



11月26日ベルブホールで行われた「ブラボー映画祭」。今年も多くのお客様で、「空席以外は満員」となりました。

最初は、ジャンププレミア上映『エイリアン VS アバター』。上映前には、スペシャルトークが行われ、製作裏話(!?)も語られました。

次はブラボー映画グランプリの審査員としておなじみのあさりど堀口文宏さんの芸能生活20周年記念イベントを行いました。スペシャルゲストには欽ちゃん劇団同期のはしのえみさんをお招きしました。多くの方からのビデオメッセージも頂き、会場は笑いに包まれていました。

最後は第6回ブラボー映画グランプリ。司会は毎度おなじみ斉藤洋美さん、特別審査員は20周年の堀口さん、そして総合プロデュース

は中野ダンキチさんです。今年度の未公開・Z級のグランプリを決めるべく、各社のノミネート作品のプレゼンテーションが行われました。そして何と、斉藤洋美さん出演の『未来忍者』が“CYBER NINJA”として、アメリカで発売されていた事実も判明いたしました。投票集計中にはじゃんけん大会、プレゼント大会も行われました。

以下が結果です。

○ブラボー賞 ・トランスワールドアソシエイツ 『ロストシングス』 ・アートポート 『終わってる』

○グランプリ作品賞 ・ニューセレクト 『シャーク・アタック!!』

ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました!

(実行委員 吉野)

第21回映画祭イベントにご協力いただきました。ありがとうございました!!

恵泉女学園大学ハンドベルクワイア

映画祭オープニングで本学客員教授 桃井和馬の写真とハンドベルのコラボレーションという、映像と音楽の織りなす新たな世界に観客一同思わず引き込まれました。

恵泉女学園大学チアリーディング部 PEPS

11月27日ファミリー・デーにて、元気で華麗なチアダンスを笑顔で披露してくださいました。

大妻女子大学バルーンアート同好会「ぼろん。」

同じくファミリー・デーにて、細長いペンシルバルーンという風船で犬やウサギなどの動物や剣といったものを作り、観客に配布、お客さまに喜んでいただきました。

第12回TAMA NEW WAVE — 骨のある人求む！来たれ！本格派映像作家！—

コンペティション ノミネート7作品一挙上映&グランプリ発表!! 11.20(日) ヴィータホール

映画の新しい才能を発見し、発信することを目的に始まった若手監督対象の中・長編コンペティション TAMA NEW WAVE は、全国から集まった作品より選ばれたノミネート作品を一挙上映し、事前審査と観客投票の結果からその日に受賞作・受章者の発表、授賞式まで行う、映画祭のハイライトプログラムの一つとなっております。

秋晴れの11月20日にヴィータホールで開催された今年のコンペティションでは、ゲスト審査員にカメラマン山崎裕氏を迎え、7本のノミネート作品を上映いたしました。実行委員の事前審査と50人の一般審査員(事前応募された一般のお客様)の投票の結果、グランプリに選ばれたのは堀内博志監督『私の悲しみ』。震災が起き本作を完成させる意味について悩んだとのことでしたが、登場人物14人のそれぞれの悲しみを描いた群像劇が高く支持されての受賞となりました。

特別賞は杉田愉監督『キユミの詩集 サクルの刺繍』。美しい風景・ラヴェルの音楽を背景に思春期の少女を映した「映像詩」とも呼べる本作は、山崎氏からも高く評価されていました。

男優賞は『春夏秋冬くるぐる』出演の松雪オラキオ氏、女優賞は『私の悲しみ』出演のよこえとも子氏が受賞しました。実行委員一同、皆様の今後のさらなる活躍を応援していきます。(実行委員 宮崎)



第22回映画祭新実行委員募集説明会 (2/19日)

「映画祭 TAMA CINEMA FORUM」では、第22回映画祭(11月17日(土)~24日(土)に開催予定)の新実行委員を募集します。世代・性別・立場を超えて、誰もが気軽に参加でき、楽しみながら活動できる交流の場として「映画祭」作りの活動をしています。あなたのやる気と熱意、得意分野を活かして一緒に映画祭を作りませんか?

▶説明会日時・場所

2月19日(日)午後3時~4時半(受付は午後2時半~) 永山公民館 講座室(ベルブ永山3階)

▶申込み・問合せ

インターネット・電話・ファクシミリ・e-mailで、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記の上、お申込みください。
〒206-0025 多摩市永山1-5 永山公民館内 TAMA 映画フォーラム実行委員会事務局 <http://www.tamaeiga.org/>
☎ 337-6661 (代) ☎ 080-5450-7204 (直通)

Fax: 337-6003

e-mail: tcf-recruit@tamaeiga.org (新実行委員募集係)

▶お申込み締切: 2月17日(金)

* スタッフの経験・未経験は問いません。

* 実行委員会は全て無報酬の市民で構成されていますので、実行委員に活動報酬はありません。



第1回特別上映会 (3/17(土)) は『ちづる』を上映します

2012年第1回特別上映会を3月17日(土)に開催予定です。作品の内容・上映時間など詳細は順次ホームページ、チラシ等で告知いたします。皆さまのご来場をお待ちしております。

●支援会員随時募集中!(一口千円より) 特別上映会の入場料金が半額、映画祭パンフレット進呈などお得な特典付きです。

